

新日鉄グループの総合力を結集した「第5データセンター」(東京都三鷹市)

5DC

5th DATA CENTER

次世代型データセンター開業 最大級のパフォーマンスを実現

新日鉄ソリューションズ(株)と新日鉄エンジニアリング(株)の技術力を結集したデータセンターが5月1日、東京都西部の三鷹市に開業した。多様化かつ高度化するITインフラの最適化ニーズに応える次世代型データセンターを紹介する。

データセンターとは、お客様のシステムサーバなどを預かり、インターネットへの接続回線や保守・運用サービスなどを提供する施設。近年、安全性やセキュリティ、高度な環境性能を備えるデータセンターの需要が増え、特に東日本大震災以降は耐震性ニーズが急速に高まっている。

新日鉄ソリューションズは、最高レベルの「信頼性・堅牢性」と「セキュリティ」を備え、かつ「高密度化」と「地球環境への配慮」という新しいニーズに応える次世代型データセンター(第5データセンター)を建設した。地盤が強く安全性の高い東京都西部の三鷹市に立地し、新日鉄エンジニアリングの技術を活かした最新の免震システム(地震の力を上部に伝えにくくする機構)「すべり支承」などの採用で、

事業停止リスクを大幅に低減。建物の堅牢性を示す指標「PML」(※1)は、他の次世代型データセンターが10%~3%の水準であるのに対し、0.2%とこれまでの常識を打ち破る優れた性能を誇る。

省エネルギーについても、都市型データセンターとしては最高水準のレベル(PUE(※2)1.4%以下)を実現。耐震性能PMLとともに、環境性能CASBEE(※3)で第三者機関から最高レベル(Sランク)の認証を受けている。

今夏には新日鉄ソリューションズが提供するクラウドコンピューティングサービス「アブソリュート」や「エヌエスグラウンディール」を導入する予定で、さらなるクラウド事業の強化を推進し、お客様のシステム開発の効率化とコスト削減に貢献していく。



可用性
・
信頼性

積層ゴム一体型U型ダンパー

すべり支承

セキュリティ

生体認証

サークルゲート

高密度化
対応

ターボ冷凍機

特高電気室

地球環境
への配慮

フリークーリング用冷却塔

太陽光発電

※1 PML(Probable Maximum Loss): 予想最大損失。予想される最大規模の地震により被害が発生した場合の復旧費用の、元の資産価値に対する割合。
 ※2 PUE(Power Usage Effectiveness): データセンター全体の消費電力を、サーバなどのIT機器の消費電力で割った値。値が小さいほど効率が高い。
 ※3 CASBEE(Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency): 建築物総合環境性能評価システム。国土交通省主導で開発された、建築物の環境性能を総合的に評価するシステム。
 ※4 可用性: 障害が発生せず、いつでも安心して使えるシステム。